

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

街頭演説
2400
日

2016年 第3回定例会報告



9月補正予算案、ハツ場ダム増額同意議案に対し、リベラル群馬は修正案を提出。討論する後藤かつみ

発行 群馬県議会 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町 800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>(スマートフォン用)

CONTENTS

- 20年前に戻ったかの様相 ～大型補正予算の時代錯誤～
- 「小さく産んで大きく育てる」の典型 ～ハツ場ダムの事業費再々増額～
- 次年度予算への提言を知事に提出
- 山村振興には思い切った組織の見直しを ～先進県に学ぶ～

群馬県の9月補正予算の主要事業

予算総額	113 億円
公共事業費 (殆どが道路整備)	99 億円
前橋日赤建設費補助	4 億円
地域包括ケア推進	2 億 4 千万円
看護師養成所の施設整備費補助	1 億 5 千万円
産業団地整備	2 億 6 千万円

「人への投資」への転換を提言
群馬県の補正予算の中身も、医療・介護関係の予算も僅かながら盛り込まれていますが、殆どが旧来型の公共事業となっています。後藤は討論の中で、「人への投資」に繋がる事業のウエイトが低すぎ、優先順位を転換を提言しました。

国補正予算、大手紙が一斉に批判
10月に、国の大型補正予算を受けて、群馬県でも過去最大規模の補正予算が組まれました。しかし、国の補正予算に対しては、大手紙が一斉に批判報道を展開。「国の財政がゆるんだままでは困る(毎日)」、「経済対策」「空ぶかし」にならないか(産経)、など、共通するのは、①公共事業頼みの経済対策の効果への疑問、②財政規律の緩みに対する懸念、という点です。こういった旧態依然とした経済対策への批判は、新党ブームに沸いた20年前頃に盛んに行われていたの思い出します。つまり、あの頃古い政治体質がまた復活しているのではないかと危惧します。

「20年前に戻ったかの様相」
大型補正予算の時代錯誤

八ツ場ダムは国の事業ですが、関係県も自分の負担を求められ、今回の増額で、群馬県は大澤知事はこれまで「増額を示す断固反対」と、強い意思を示して増額を認めず、今回も同様です。しかし、現実には、国に逆らえない地方の現状があります。民党を含む各会派が反発。「こじごじを絶対認めない」という強い姿勢を国に示さなければ、またかじごじを繰り返すのでは、と指摘が相次ぎました。

国に「物言えない」地方の現実

ハツ場ダム事業費の増額・工期延長



工期延長と増額変更を繰り返し、事業費を膨張させ続ける公共事業の典型

当初計画の2.5倍!
別表のとおり、ハツ場ダム事業は度重なる工期延長と増額変更によって、当初計画の実に2.5倍にまで事業費が膨れ上がっています。多くの大型公共事業に共通するのは、スタート時には批判を避けるために事業費を低く抑え、後は「一度始まったら止まらない」という公共事業神話に守られながら、なし崩し的に事業費を膨らませ続けることです。

「小さく産んで大きく育てる」の典型
ハツ場ダム事業費再々増額



後藤も会派の責任者として提言を取りまとめる。リベラル群馬らしく、若者・女性の視点からの提言も積極的に盛り込む。

次年度予算への提言を知事に提出

12月14日、リベラル群馬は次年度予算への提言書を大澤知事に提出。その柱は、①将来世代に負担を残さない県政運営、②人への投資への転換、③「今ある」インフラ・資源を活かす、の3点です。

財政悪化状況から抜け出し、「人への投資」への転換を提言

大澤県政となり10年。他県が財政健全化をすすめる中、公共事業費を縮小する中、知事は「7つの交通軸」を掲げ、大型道路整備を中心に「超積極型」予算を組んできました。結果、表のとおり、全国トップクラスだった財政は悪化の一途をたどっています。

更には、高崎競馬場跡地のイベント施設建設により、その傾向はますます加速するでしょう。

もちろん、特別支援学校の整備など、「人への投資」に繋がる事業も進めています。その比率は僅かですが、ありません。リベラル群馬は、何よりも将来世代のことを考え、負担を残さず、未来の人材に投資する政策への転換を提言しています。

知事への予算提言の主な内容

① 将来世代に負担を残さない県政運営

- ◆全国順位を下げていく財政健全度の立て直し
- ◆高崎競馬場跡地のイベント施設建設を建設コストの落ち着いた適切な時期に見直す

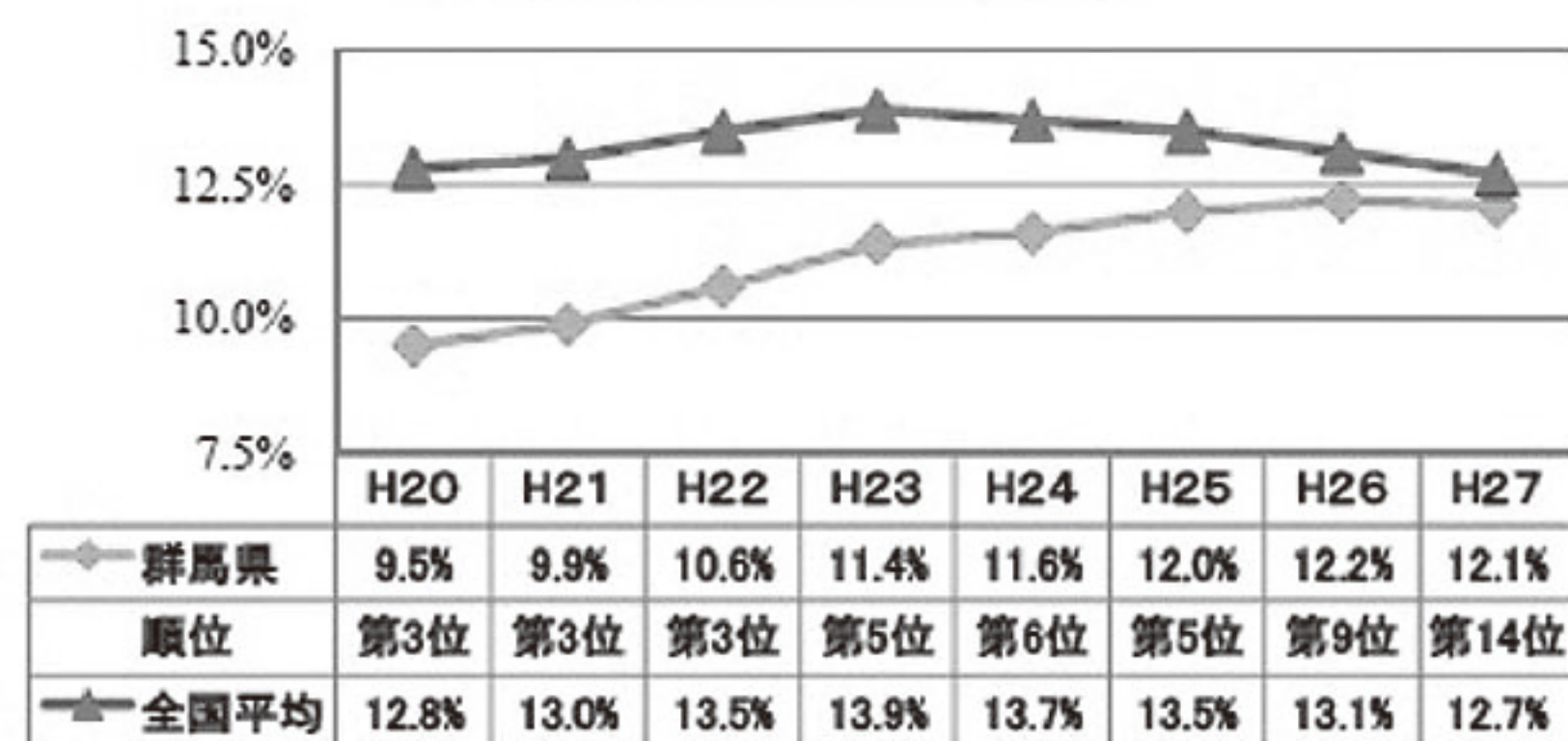
② 「人への投資」への転換

- ◆ジョブカフェ群馬の強化による、若者・女性の雇用促進
- ◆介護人材確保に向けた処遇改善・人材育成策の充実
- ◆県独自の子どもの貧困対策の推進
- ◆全国下位にある障がい者雇用率向上に向けた取り組み

③ 「今ある」インフラ・資源を活かす

- ◆既存の道路・橋梁などを維持管理・改良する予算を、新設よりも優先する公共事業への転換
- ◆豊富な森林・水資源を活用した自然エネルギー事業の推進

実質公債費比率の推移



※表中の順位は、低い(良い)方からの全国順位です。

実質公債費比率とは、借金が県の財政にどれだけ負担になっているかを示す指標。数値が低いほど良い。

地域活動報告



〈日高地区〉

| 地元・林恒徳市議と協力し、県道前橋高崎線の危険な歩道部分をフラットに舗装補修。



〈飯塚地区〉

| 町内の要望を受け、マリエール前に横断歩道を新設

山村振興には思い切った組織の見直しを ～先進県に学ぶ～

施策に力強さを欠く群馬県

本県でも県土の6割を占める山村地域の人口減少や集落の維持は深刻な問題となっています。

しかし、本県の山村振興策は、シンポジウムなどのソフト事業を中心に僅かな予算しかなく、近年ようやく移住促進の取り組みなどが始まりましたが、力強さに欠けており、人口減少の状況を食い止める状況にはなっていません。

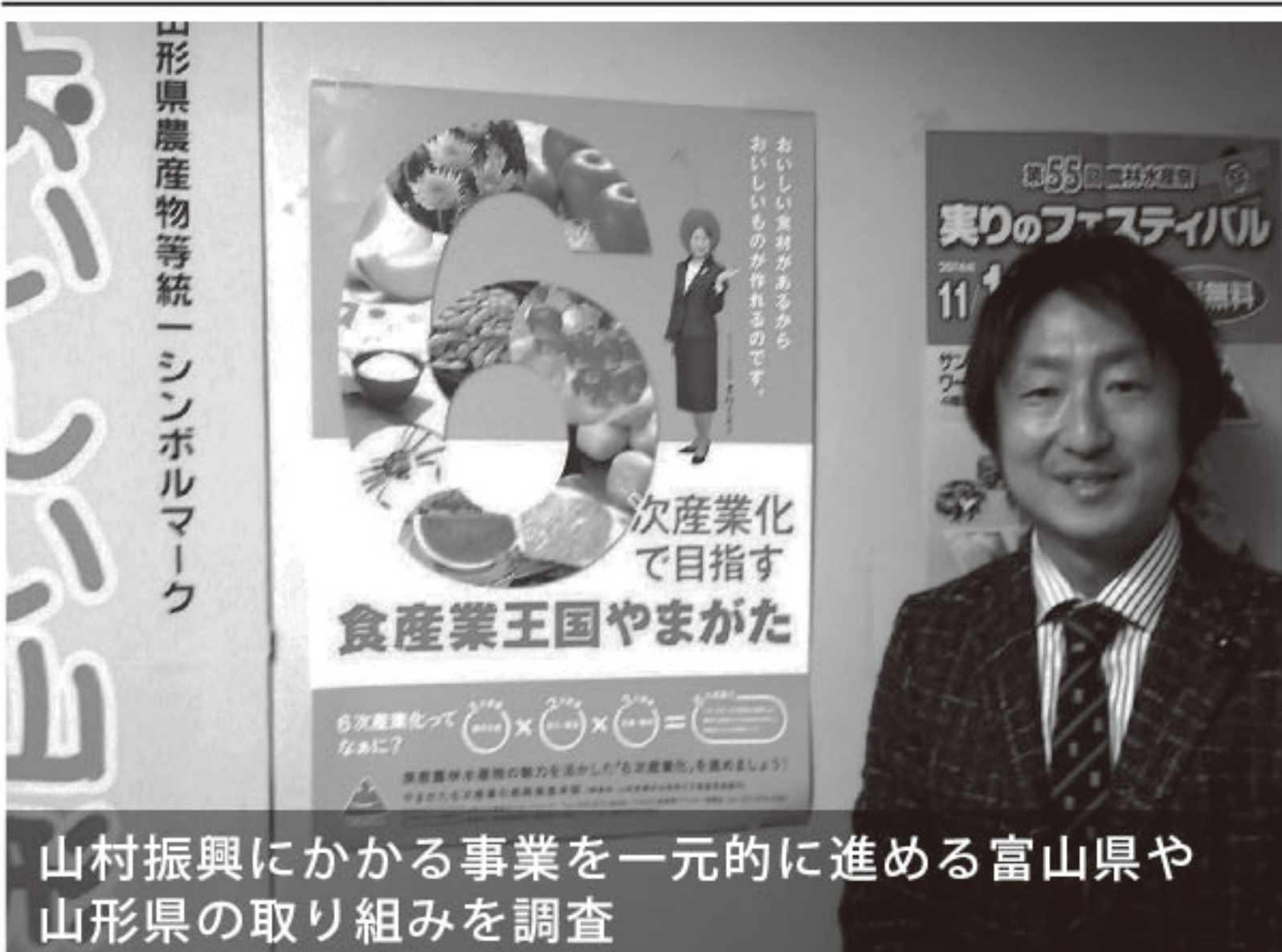
先進県は担当部署を一元化

その大きな要因として、本県の山村振興策は、企画部の数名の係が担っているのみで、このことだけでも知事の「本気度」が感じられません。

また、山村地域の産業振興の中心となる農林部門との連携も殆どないため、効果的な施策ができない状況です。

後藤は、山村振興を県政の柱に据えて取り組む先進県の調査を続けており、今年度も富山県・山形県を訪問。

先進県に共通するのは、施策を一元的に行う部署を作っていること。富山県では、農村振興課という部署で、6次産業化などの農林業振興策から移住促進や買い物支援などの集落支援まで全て一元的に行っています。



山村振興にかかる事業を一元的に進める富山県や山形県の取り組みを調査

ています。同様な事業を、多数の部・課でバラバラに行っている本県とは大きな違いがあります。

リベラル群馬の知事への予算提言の中で、先進県を参考に山村振興策の一元化を提言しました。